

授業科目：精神看護学実習（精神に障害をもち、入院している人の看護）

科目目標： 1 精神に障害をもち、入院している人の治療環境と看護師の役割を理解できる。

2 精神に障害をもち、入院している人を理解し、必要な援助を实践できる。

3 精神に障害をもつ人との関わりを通して、自己の内面の変化に気づき自己洞察ができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 精神科病棟の治療的環境を述べられる。	1) 精神科病棟の特徴 (1)病棟の構造・設備 (2)保護室の環境 (3)鍵の管理 (4)院内の施設・環境 2) 入院形態 3) リスクマネジメント (1)自殺・自殺企図 (2)転倒 (3)誤飲、誤薬 (4)離院 4) 処遇 (1)隔離・拘束 (2)通信・面会 (3)外出・外泊 5) 代理行為 (1)私物の管理(金銭・煙草・おやつ等) (2)日用品の購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、病棟オリエンテーションを受け、入院形態や看護管理の特徴、事故防止・療養環境について理解する。</li> <li>・病棟の安全管理について、カンファレンスで話しあう。</li> <li>・実際に行われている看護場面を見学する。</li> <li>・病棟により症状や看護が異なるので最終日又は、実践活動外学習の時間を利用して、合同カンファレンスで情報交換する。</li> </ul>
2 看護師及び他の保健医療福祉メンバーの役割を述べられる。	1) 患者—看護師関係の展開 2) 日常生活の援助者・相談者・ロールモデル 3) 家族への援助 4) 環境調整 5) 病棟運営 6) 他の保健医療福祉メンバーの役割と連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の関わっている場面の見学やカンファレンスを通して、看護の役割を学ぶ。</li> <li>・患者と関わり患者との距離感を体験し、助言を受けながら原則を踏まえて関わる。</li> <li>・疾患を考慮した意図的な関わりと、一人の人間として偏見を持たないで関わりを行う。</li> <li>・受持ち以外の患者とも、コミュニケーションをとる。</li> </ul>
3 患者に適したコミュニケーションをとることができる。	1) 傾聴・共感・受容 (1)患者に関心を寄せる (2)患者の言動をあるがままに受け止める (3)患者の言動の意味を考える 2) 非言語的コミュニケーションの活用 3) 患者との距離の取り方 4) 精神症状の観察と対応 (1)幻覚妄想状態 (2)不安緊張状態 (3)抑うつ状態 (4)躁状態 (5)無為自閉 (6)睡眠障害 (7)拒絶症状 (8)強迫症状 (9)攻撃的行動 (10)操作・試し行為	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患を考慮した意図的な関わりと、一人の人間として偏見を持たないで関わりを行う。</li> <li>・受持ち以外の患者とも、コミュニケーションをとる。</li> </ul>

行 動 目 標	内 容	方 法
4 受け持ち患者・家族の状況及び必要な援助をアセスメントできる。	(11) 昏迷 (12) 認知症 など  1) 生育歴・生活歴・現病歴・家族歴の把握 2) 精神症状と精神症状が日常生活行動や身体に及ぼす影響 3) 病識・現在の状況の受け止め・将来への希望 4) 受けている治療・看護 5) セルフケアレベル 6) 一日の過ごし方 7) 患者に必要な日常生活の援助 8) 家族の患者の受け止め方、サポート体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 患者を1名受持ち、看護過程の展開を行う。</li> <li>• 患者の生活の障害を考慮し、希望を聞きながら自立した生活を考えた援助を実践する。</li> </ul>
5 受け持ち患者に必要な援助を実践できる。	1) 患者を全体として捉え、健康回復・維持・増進や患者の強みに向けた援助 2) 治療と援助 (1) 薬物療法 ① 与薬方法・留意点 ② 副作用の観察 ③ 服薬自己管理指導 (2) 作業療法 (3) レクリエーション療法 (4) 電気けいれん療法 3) 社会復帰に向けた援助 (1) 可能な社会復帰の形 (2) 活用できる社会資源 (3) ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 受持ち患者の与薬を見学後、2週目に実施する。</li> </ul>
6 再構成を通して自己洞察できる。	1) 場面の選択 2) 考察 (1) 患者の言動の理解を深める (2) 自己の感情、思考の傾向に気づく (3) 患者への関わり方を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1週目と2週目に再構成を2場面記述する。</li> <li>• 2週目は、受持ち患者との関わりを再構成する。</li> <li>• 再構成を通して自己の傾向について、振り返る。</li> </ul>
7 精神医療・精神保健福祉の現状、課題について述べられる。	1) 精神障害者の処遇の歴史的変遷 2) 患者の権利擁護 3) 社会資源と地域の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実践活動外学習で話し合い、患者を通して自分の考えをまとめる。</li> </ul>

授業科目：精神看護学実習（精神に障害をもち地域で生活している人の看護）

科目目標：精神に障害をもち地域で生活している人に必要な支援を理解できる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 生活を支援する施設の役割・機能が述べられる。	1) 生活を支援する施設の目的・運営 2) 活動内容 3) 一日の流れ・週間予定 4) 職員の役割 5) 他職種、他施設との連携 6) 地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受持ち患者は持たない。</li> <li>・オリエンテーションで、実習内容・予定を確認する。</li> <li>・活動を共にやり交流しながら把握する。</li> </ul>
2 利用者の特徴を述べられる。	1) 利用者の利用目的・就労や将来への展望など 2) 利用者の活動への取り組み状況 3) 職員や他のメンバーとのコミュニケーションの取り方 4) 生活する上で困っていること (1) 疾患からくる生活の障害 (2) 受診、服薬の状況 (3) 家族や人との関わり (4) 経済基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業中は状況に応じて、休憩時間を利用して利用者とは話し話しかける。</li> </ul>
3 利用者への関わり方を述べられる。	1) 職員の利用者への関わり方 2) 利用者間の関わり 3) 自分の関わりへの利用者の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション及び、利用者とのコミュニケーションを通して、理解する。</li> </ul>
4 地域で生活している人のサポートシステムと課題が述べられる。	1) 利用者が使用している社会資源 (1) グループホーム (2) 社会資源の利用とソーシャルサポート(エコマップ) (3) 自助グループ (4) 地域活動支援センター 2) 地域で生活する人の生活環境 3) 精神保健医療福祉の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加や生活支援をカンファレンスや実践活動外学習で話し合い確認する。</li> <li>・「考察」に自分の考えをまとめる。</li> </ul>